

選出理事候補者一覧

近畿ブロック 定数 3名

(届出順、敬称略)

	氏名	勤務先
1	本庄 かおり	大阪医科薬科大学
2	三浦 克之	滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター
3	近藤 尚己	京都大学

所 信 表 明

1	本庄 かおり	大阪医科薬科大学
<p>疫学の重要性は臨床医学、薬学、看護学といった様々な分野において広く認知されつつあります。今後、さらに疫学が社会に貢献するためには、疫学の学問としてのステータスを向上させ、社会においてその学問的意義を広く理解していただくことが必要だと考えます。そのためにも疫学者がプロフェッションとして確立できるよう学会としての努力が益々重要であると思います。私はこれまで、2013年から代議員、2015年より Journal of Epidemiology の編集委員、2018年からは疫学専門家・人材育成担当理事として疫学会の運営に参加させていただいております。今後も疫学の重要性を広く発信するとともに、その重要性と魅力を次世代に伝え、そしてさらに発展させていくことに微力ながら貢献したいと考えています。また、近年、本学会における女性会員は増加の傾向にありますが、将来において女性の疫学者が益々活躍できるような育成システムの確立・充実に、女性研究者のひとりとして是非取り組みたいと考えております。</p>		

2	三浦 克之	滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター
<p>私はこれまで大学で公衆衛生学教育に従事すると共に、主に循環器疾患予防のための疫学研究に取り組んできました。2009年に滋賀医科大学教授に就任し、2013年に本学に開所したNCD疫学研究センターのセンター長も務めています。また日本疫学会には1991年に入会し、2003年から評議員、2014年から理事を4期務め、2018年1月から副理事長を務めています。私は日本疫学会理事として、会員の皆様と共に以下を進めて参ります。1. 疫学専門家制度を定着・発展させ、これを基盤として会員の増加および若手研究者の育成を進め、わが国の疫学研究のレベルアップを推進します。2. 行政等の保有する健康関連ビッグデータの研究活用が進む中、また、現在も新型コロナウイルスのパンデミックが継続する中、日本疫学会の果たす役割は重要です。適切なデータ活用や公衆衛生施策に関する提言を行うとともに、学会を中心とする研究プロジェクト推進を図ります。3. わが国の健康問題解決のためには疫学的見地からの意見を広く社会に発信する必要があります。学会から行政への提言やマスコミへの意見発信を推進します。</p>		

3	近藤 尚己	京都大学
<p>19年間、学会員として若手の会代表、JE編集委員、将来構想委員、国際化推進委員等を歴任してきました。将来構想委員として関わった「疫学会が10年後にめざす姿」についての議論は、自身の研究の方向性を見据える良い機会にもなりました。責任ある立場で「めざす姿」の達成にかかわりたいと思うに至り、この度、理事に立候補しました。「疫学会が10年後にめざす姿」の一つに「人々が健康に安寧に暮らすための質の高いエビデンスの創出とその社会還元」があります。私が専門とする社会疫学にとって社会還元は最重要の事項であり、常にそれを意識し、実際に社会保障や高齢者施策への実装を進めてきました。昨今頻発する大規模災害や感染症パンデミックの発生により、日本疫学会に期待される社会還元の役割はますます高まっていると実感しています。「めざす姿」のもう一つである「アジア・パシフィックのリーダーとなる」についても、日本の高齢者保健に関する疫学研究の経験を生かして、国連Healthy Ageingの実装作業への参加やWHOアジア太平洋事務局との共同疫学調査を進めてきました。理事に選出された際には、これらの国内外での経験を活かし日本疫学会の発展のために尽力する所存です。</p>		

※勤務先の記載は立候補時の申告に基づいています。